

# 宮ノ陣ビオトープ新聞

第3号

(2017年2月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年9月創刊 季刊

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地  
〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力

株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

おやこ  
親子で

## ホタルのくらしを知る

2017年3月18日(土)  
13:30~15:30(受付 13:00~)

ホタルは何を食べて  
くらしているのかな?

寒い季節、ホタルの幼虫は  
どこでくらしているのかな?

会場： 宮ノ陣クリーンセンター  
環境交流プラザ  
(久留米市宮ノ陣町八丁島 2225)

内容：  
・ビオトープの概要について  
お話し  
・ホタルのくらしについて  
お話し  
・ビオトープの見学など

講師： ホタルの専門家  
対象： 小学3年生~6年生と保護者  
定員： 20組  
参加料： 無料  
持ち物： 筆記用具

服装： 屋外に出る時に動きやすく、寒くない服装と靴  
※屋内での講話が中心ですが、一部、屋外での見学もあります

申込み： くるめハイトラストまで電話で  
☎ 0942(27)7515  
※先着順に受付、定員になり次第締切り  
※2月22日(水)9時より申込み受付

問合せ： くるめハイトラスト株式会社  
TEL/0942(27)7515

### 【 宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内 】

住所 〒839-0805  
久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地

開園時間 9:00~17:00

休園日 毎週水曜日(休日の場合は翌日)、  
12月29日~1月3日

アクセス 車/国道322号沿い、駐車場有り  
電車/西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分

問合せ くるめハイトラスト株式会社  
TEL/0942(27)7515  
FAX/0942(27)7491



宮ノ陣学びのビオトープのホタル水路

### ホタル来い!

**ホタルのくらしを学ぶ親子講座の  
受講生を募集します!**

昔は田んぼや川の近くにたくさん飛んでいたホタルですが、最近あまり見られなくなってきました。「宮ノ陣学びのビオトープ」にホタルがくらせるようにするため、ホタルのくらし方を学び、何をすればいいのかを考える親子講座が開かれます。

日本では、ホタルは昔から夏の風物詩として親しまれてきました。一方で、近年は生き物に配慮されない河川護岸の改修や田んぼの減少など様々な理由でホタルがくらせる場所が少なくなっています。

「宮ノ陣学びのビオトープ」は、地域の生き物について学習できる空間として整備され、その中にはホタルのくらしを学習する水路もあります。知ってそうで知らないこともあるホタルのくらしについて、親子で一緒に学びましょう。

# ウメの花を見にいこう！

花の形や色、枝からどのように咲いているかなど観察してみよう！



宮ノ陣学びのビオトープに咲いたウメの花

## ウメ

宮ノ陣学びの  
ビオトープの木

都道府県や市町村では、その地域の特徴的な花や木を県花（県木）として定め、大切にしています。ここ福岡県の県花は「ウメ」です。これは、学問の神様で有名な太宰府天満宮（福岡県太宰府市）のウメにちなんで選ばれました。太宰府天満宮には、菅原道真公を慕って、都から一夜にして飛んできたと伝えられる由縁のある御神木の飛梅（とびうめ）と境内には他にも、約二百種、約六千本の白梅・紅梅があり、日本有数の梅の名所となっています\*。さらに、都道府県の風土・歴史・文化などを象徴的に表現する県章は、福岡県はウメの花を形どり、県の発展と県民の融和を表したデザイン\*二になっています



花の色は品種によって紅、白など異なりますが、宮ノ陣学びのビオトープのウメは紅色の花が咲きます。花は三月頃まで咲くので、是非、見に来てください。

\*一 太宰府天満宮のホームページより  
\*二 福岡県のホームページより

ホタルが見られるようにするためにできることは

ホタルは何のために光るの？ 昼間はどこで何をしているの？ 何を食べているの？ 川や田んぼ以外でもくらせるの？ 卵はどこに産み付けるの？ 卵はどんな形なの？ 幼いホタルはどんな形をしているの？ ゲンジボタルとヘイケボタル以外の種類もいるの？ 日本以外にもホタルはいるの？ などホタルに関しては、意外と知らないことも多いのではないのでしょうか。ホタルがくらせるようにするため、まずは、くらす場所の条件や餌などについて知る必要があります。今回の講座では、ホタルの専門家を講師に迎え、写真などを使ってわかりやすく解説します。



ゲンジボタルがくらす高良川上流の様子

ホタルのくらしを考えることは、地域の環境を考えること。ホタルは、くらす場所の気温、明暗、餌となる生き物などの状況や、水の温度、流れ、きれいさなど、様々な環境がそろった場所でしかくらしていきません。ホタルがくらせる環境をいろいろ考えていくのと同時にみなさんが住んでいる地域や、久留米市をもっと棲みやすい環境にするにはどうしたらいいかを考えていきたいと思います。

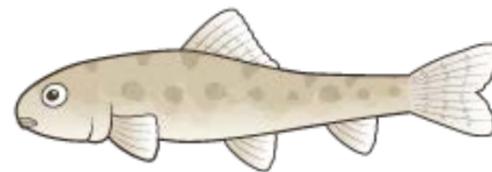


“宮ノ陣学びのビオトープ”に繁殖する木や草、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。第3回は「ゼゼラ」です。

(分布) 九州北西部、琵琶湖淀川水系、山陽地方など  
(生息場所) 平野の川、池の流れのゆるやかな砂泥底が主な生息場所  
(くらし) 泥の表面についた藻類を好み、プランクトン動物も食べる。見た目がツチフキ（生き物図鑑第2回参照）に似ているが、ゼゼラは口の周辺が短くて丸いのが特徴。ゼゼラという名は、諸説あり、滋賀県・膳所（ぜぜ）で見つけられたからとか、砂底を突つき「せせる」動作からゼゼラに転じたと言われている。 出典：日本淡水魚類図鑑、保育社に追記

### 第3回

## ゼゼラ



次号  
予告

ホタルをテーマにした親子講座のご報告、春のビオトープの様子などお楽しみに！

